

## 町制施行30周年記念対談

いままでもこれから

## 五霞町とともに



五霞町は今年の6月で町制施行30周年という大きな節目を迎えます。この記念すべき年に、五霞町の「過去・現在・未来」を語り合う特別対談を実施しました。

地元の建設業を支えるとともに新たな住まいづくり尽力する菊地さんと、町制施行の平成8年に生まれ、現在は消防士として町民の安全を守る篠崎さんに、知久町長と世代や立場を超えて、五霞町への深い愛着と未来への展望を熱く語っていただきました。

## 30年前の記憶と

## 町の変化を振り返る

——平成8年の町制施行から30年。みなさんの記憶に残る五霞町はどのような姿でしたか？

**町長** 30年前は今よりも兼業農家の方が多く、仕事をしながら、農業を営む方が多かった印象があります。当時はまだ交通網も未発達で「不便」な面もありましたが、地域の繋がりが非常に強く、どこか懐かしい風景が広がっていました。

**菊地** →近所付き合いが濃密で、冠婚葬祭も地域一丸となって取り組むような、そんな温かさがありました。

**篠崎** 私はちょうど町制施行の年に生まれた「30歳」世代です。こどもの頃の思い出といえば、やはり「道の駅「こか」ができたこと。みんなで遊ぶときの集合場所といえば道の駅でした。

## 劇的に進化した「交通の利便性」と「豊かな自然」の共生

——この30年で、五霞町の「住みやすさ」はどのように変化しましたか？

**町長** 最大の变化は「交通の利便性」の飛躍的な向上です。圏央道の開通、国道4号バイパスの整備、そして近隣の主要駅(幸手・栗橋・南栗橋)へのアクセスの改善。今や都



心まで1時間圏内という、非常に利便性の高い場所になりました。それでいて、一歩路地に入れば、30年前と変わらない美しい田園風景と澄んだ空気が残っている。この「便利さと自然の共存こそ、今の五霞町が誇るべき最大の魅力です。

**菊地** 農業が基本なのは変わりませんが、工業団地の開発や新4号国道・圏央道五霞インターチェンジが開通したことで地域のポテンシャルが上がったと思います。

**篠崎** そつですね。圏央道の開通や国道4号バイパスの4車線化で、町の利便性が劇的に向上したことを肌で感じてきました。